第一回調査研究検討会議が開催される（3）

平成２９年１１月７日

文部科学省の研究指定を受けている「高校生の基礎学力の定着に向けた学習改善のための調査研究事業」に関する第１回調査研究事業検討会議では、公用で欠席されました山梨県総合教育センター研究開発部　廣瀬志保主幹・指導主事をお迎えして、本校の取組についてご指導をいただきました。県教育委員会学校支援課からは　園部栄子教育主管が午後から参加されました。

授業参観（地歴公民）

まず、本校の特色及び研究実践について説明の後、授業参観（数学・英語・地歴公民・理科）を行いました。

午後はタブレットを活用した「現代文Ｂ」の研究授業を見ていただきました。「詩を味わう」というテーマに基づき、各自がクラス全員の作品をタブレット画面で鑑賞し、喜びの詩、怒りの詩、哀しみ（悲しみ）の詩、楽しみの詩の４つのジャンルに分けました。その後グループになって再度４つのジャンルに分け直して、グループとしての意見をまとめました。担当教員はグループでジャンル分けを行わせ、その理由を感覚ではなく言語化して説明できるようにしていくというねらいがありました。今回の授業ではインフラ環境の整備の面では課題を残しましたが、授業でタブレット４０台を効果的に使用することについて、研究課題をより具体的に明確にすることができました。

研究授業（現代文Ｂ）

最後に、研究授業及び調査研究授業に対するご指導をしていただきました。

廣瀬先生からは、「＊明誠スタイルの確立に向けて、授業改善が順調になされている。また、タブレットの活用も授業の目的を達成するため、工夫がなされている。」との評価をいただきました。

廣瀬志保　主幹・指導主事、園部栄子　教育主管

園部先生からは、「タブレットの活用は今

後ますます広がっていく。授業研究を進めることはとても大切だ。」との助言をいただきました。

＊「明誠スタイル」検討の方向性

①基本の授業展開
・本時の課題の認識

②生徒が主役の授業
・教師のはたらきかけ
・生徒の思考過程の表出
・生徒間対話の促進

③授業イメージの共有
・協力し合う雰囲気
・教師も一緒に考える

④実生活・実社会とのつながりを意識した授業